「紹介したいもの」がたくさんあること

民泊先からのお出迎え

漁師さんに魚のさばき方を教えてもらう

漁船で島々をクルージング

地元の人にお勧めの展望台を案内してもらう

今回、僕らは家島本島と坊勢島の一般のお宅に「民泊」させてもらうことになった。それぞれのお宅でいえしまの人たちは僕らを盛大にもてなしてくれた。そのもてなしの内容は僕らにとって印象的なものばかりだった。「会わせたい人」、「伝えたい伝統」、「食べさせたい料理」、「見せたい仕事」、「持たせたい土産」など、これらはいわゆる「どこかから借りてきたもの」ではなく、いえしまで生活する人たちの日常生活とつながっているものだった。だから島のみなさんは自信をもってこれらを僕らに紹介してくれた。訪れて来る人に「紹介したいもの」がたくさんあることは、とてもうらやましいことで、すごく「リッチな生活」だと思った。普段都市で生活している僕らは、果たして自分の日常生活の中にこういった「紹介したいもの」を持っているだろうか。

いえしまの魅力的な人たち

僕らが、家島本島や坊勢島を歩きまわった際には、多くの「魅力的な人たち」に出会うことができた。海運の基地では船の修理に携わっている人に話を聞いた。その人は僕らにいえしまの採石産業の歴史や現状などを詳しく解説してくれた。漁港では作業をしている漁師さんが僕らを漁船に招いてくれた。そこでその日に獲れた魚の名前やその特徴を教えてくれた。路地で井戸端会議をしている主婦や学校帰りの中学生からは「何してんの？」と話しかけられ、そこから楽しい会話がはじまった。「船の荷揚げ場らしきところ」で酒盛りをしていた人たちにも遭遇した。その人たちは僕らを快く宴会の輪に参加させてくれ、お酒を飲み交わしながら交流を深めた。あるお寿司屋さんのご主人は、いえしまで獲れる季節の魚の料理法や新商品開発の話を熱心にしてくれた。ある喫茶店ではマスターの知人を大勢呼んでもらって大いに話が盛り上がった。いえしまの魅力的な「もてなしの要素」。その中でも特に鍵となるのは「人」だと思った。いえしまには魅力的な人がたくさんいる。いえしまの歴史や文化の話を知りたいとき、お勧めの場所を知りたいとき、おいしいお店を探したいとき、いえしまの人たちに直接聞いてみることが一番良いと思った。みなさんとても親切に応えてくれた。自分が知らない情報でも知っている人を連れてきてくれた。そんなときも、僕らはいえしまで「もてなされている」という気分になった。

人懐っこい中学生

屋外での酒盛りに参加

喫茶店での交流